

# II

## 中学校の英語の授業

～実践編～

# 1年生「自分らしさが伝わる自己紹介」

## ●● 1単元で「自分らしさが伝わる自己紹介」を指導する事例 ●●

### 1 導入

- ① 教師やALT、先輩の原稿や発表のモデルスピーチを見せる。

スピーチ例（生徒の実態に応じて文を選択）：

Hello, everyone!（はじめのあいさつ）  
I am ○○. / My name is ○○. Please call me ○○.（名前やニックネーム）  
I am from ○○. / I come from ○○.（出身地）  
I am ○○ years old.（年齢）  
I am a(an)（形容詞）boy/girl.  
I play ○○.（スポーツや楽器等すること）  
I like ○○. / I am a(an) ○○ fan.（好きなもの） I enjoy ○○.（趣味）  
I have ○○.（兄弟、ペット、宝物等）  
I am good at ○○.（得意なもの）  
I am on the ○○ team. / I am in the ○○ club. /  
I am a member of the ○○ club.（部活動等）  
Thank you for listening.（終わりの挨拶）

※食べ物、好きな芸能人、テレビ番組、漫画やアニメ、学校で流行っているもの等、ローマ字で表現できる内容を加えると、限られた既習表現でも意外性のあるスピーチにすることができる。

※名前、出身、年齢といった概要に当たる部分は先に、好きなことなど詳細な内容は後半にもってくることを確認しておく。

- ② モデルスピーチを聞き、良かった点についてグループで話し合い、発表させる。（P49）

想定される内容：発音、興味のわく内容、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢、表情、アイコンタクト等

- ③ 発表までの日程、評価規準（P55）を伝え、生徒に達成してほしい目標を明確にする。

## 2 展開

- ① ワークシート (P50) の中心円に「自己紹介」と書かせマッピングして、アイデアを広げさせ、何をスピーチに盛り込むか決めさせる。マッピングを以前に行ったことがない場合は黒板等で簡単に説明する。マッピングは日本語で行っても構わないが、英語で書けるところは英語で書かせるようにする。
- ② 教科書の既習の文から、生徒が自己紹介をするときに使うことができそうな文を探させる。P44の「スピーチ例」や教科書の自己紹介を扱ったページを参照させるなどして文のモデルを与えるようにする。また、教科書の巻末資料等にスピーチに活用できる単語がまとめられている場合は、生徒にあらかじめ伝えておく。
- ③ 下書きをさせる。生徒の実態に応じて「3文書けたら持ってこよう」など、途中で確認するステップを作っておくのもよい。(P52 参照)
- ④ 教師やALTが添削を行う。
- ⑤ 清書をさせる。(P53 参照)
- ⑥ 個人⇒ペア⇒グループで発表の練習をする。原稿をスラスラと読めるようになったらメモを作らせ、メモだけを見てスピーチができるようにする。

## 3 発表「自分らしさが伝わる自己紹介」

- ① スピーチ原稿完成後、クラス内発表の時間と、発表順を伝える。原稿を見ないで発表することを原則とし、難しい場合は、メモを見て発表するようにする。
- ② 他の生徒は聞き手となり、発表を聞く。

簡単な評価票を使ってスピーチの良かった点を相互評価させる、聞き手となっている生徒がスピーチを行う生徒に質問する、スピーチの最後を質問文にして、聞き手が答えるなど聞き手が一方的に聞くだけにならないような工夫をするとよい。(P54 参照)

質問文の例：

Do you play/like/have ○○, too ?

Is ○○ interesting for you ?

Are you a(an) ○○ fan, too ?

指導例：夏休みを活用してスピーチの練習を行う方法

教科書で出てきた文や補充プリントを参考にして、夏休み前の時間に10文程度の自己紹介文を書かせる。 → 夏休み前に一度原稿をチェックして返却し、生徒は夏休みの間に原稿を見ないでスピーチできるよう練習する。 → 2学期に発表させ評価する。

# 1年生「友達・家族紹介」

## ●●「友達・家族紹介」を1単元で指導する事例●●

### 1 導入

- ① 教師やALT、先輩の原稿や発表のモデルを見せる。

考えられる発表例（生徒の実態に応じて文を選択）：

Hello, everyone! Look at this picture. (はじめのあいさつ)

Who is this? (聞き手の関心をひきつけるための質問)

He/She is my ○○. / He/She is ○○. / His/Her name is ○○. / This is my ○○.

(紹介する友達や家族の指定)

He/She is from ○○. / He/She comes from ○○. (出身地)

He/She lives in ○○. / His/Her house is near ○○. (住んでいるところ)

He/She is ○○ years old. (年齢)

He/She is kind/popular/cool/strict/active/quiet/a teacher/a singer. (特徴、職業)

He/She plays/teaches/speaks ○○. (スポーツや楽器、言語等)

He/She likes ○○. / He/She is a(an) ○○ fan. / He/She enjoys ○○. (好きなもの・こと、趣味)

He/She has ○○. (兄弟、ペット、宝物等)

He/She is good at ○○. / He/She can ○○ well. (得意なもの・こと)

He/She is on the ○○ team. / He/She is in the ○○ club. He/She is a member of the ○○. (部活動等)

Thank you for listening. (終わりのあいさつ)

※ 既習の動詞や、can を使って表現させる、否定文を加える等、自己紹介で表現した内容から表現を広げるようにする。三人称を主語にした文を書くことが予想されるので、生徒が文法的なミスをしないように復習しておくようにする。

※ 「自己紹介」と同様、名前等、概要に当たる部分は先に、詳細な説明に当たる部分は後半にもってくることを確認しておく。

- ② 以前に取り組みさせたスピーチをビデオ等で見せて、これまでに学習した内容を思い出し、良いスピーチの要素を確認する。また、先輩が行った際のモデルとなる発表を見せたりするとよい。態度・表現内容・音声等の良い点については、自分の発表に積極的に取り入れていくように伝える。

良いスピーチの要素（例）：発音、興味のわく内容、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢、表情、アイコンタクト等

- ③ 発表までの日や評価の観点（P55）を伝え、生徒に達成してほしい目標を明確にする。

## 2 展開

- ① ワークシート（P50）の中心円に「友達・家族紹介」と書かせ、マッピングすることで、アイデアを広げさせ、何をスピーチに盛り込むか決めさせる。

- ② 教科書から、既習の文で紹介するときに使おうことができそうな文を探させる（P51）。または、前述の「考えられる発表例」や教科書の他者紹介を扱ったページを参照させるなどして文のモデルを与えるようにする。また、教科書の巻末資料等にスピーチに活用できる単語がまとめられている場合は生徒にあらかじめ伝えておく。

- ③ 下書きをさせる。生徒の習熟の程度に応じて「3文書けたら持ってこよう」など途中で確認する段階を作っておくのもよい。

- ④ 下書きができれば、机の上に自分のスピーチ原稿を置かせた後、教室を自由に移動してもよいこととし、他の生徒の作ったスピーチ原稿を見る時間をとる。他の生徒の工夫している点を積極的に取り入れてよいことを伝える。

- ⑤ 教師やALTが添削を行う。

- ⑥ 清書をさせる。

- ⑦ 個人⇒ペア⇒グループで発表の練習をする。

## 3 発表「友達・家族紹介」

- ① 発表原稿完成後、クラス内で発表の時間を設定する。発表時には紹介する人の写真やスピーチの中に出てくるものなど視覚資料を用意させておくことにより充実した内容の発表にすることができる。原稿は見ないで発表することを原則とするが、キーワードになる語をメモとして持たせたりするなど、暗記の負担を軽くし、思い出せないことを理由に発表に苦手意識をもたせないようにする。また、一字一句原稿

と同じ言葉で話すことより、伝えようという気持ちが大切であることを伝えておく。

② 他の生徒は聞き手となり、発表を聞く。

簡単な評価票（P54）を使って発表の良かった点を評価させる、聞き手となっている生徒がスピーチを行う生徒に質問する、発表の最後に、発表した内容に関するクイズを一文加えて話し、聞き手が答えるようにするなど、聞き手が聞くだけにならないように工夫するとよい。評価や質問を同時に行うことが難しい場合は、ビデオ録画をしておき、後日見せながら相互評価させることも考えられる。

※ 個人情報に留意する。生徒の実態に応じて、紹介する人を先生や有名人にして行うこともできる。

## モデルスピーチを聞いてみましょう

- 1 モデルスピーチを聞いて、良いと思った点をメモしてみましょう。

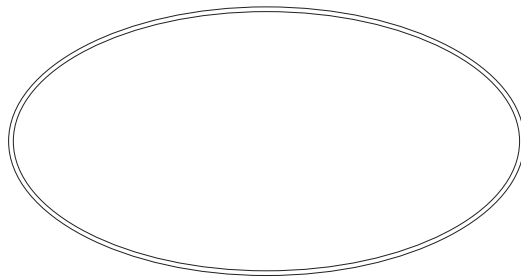
- 2 モデルスピーチを聞いて、良いと思った点をペアで話し合い、結果をグループで伝え合きましょう。自分が気付かなかった点は1のメモに書き足してみましょう。
- 3 自分がスピーチをする際に、モデルスピーチから積極的に取り入れたいことを目標として立ててみましょう。  
(内容、声の大きさ、ジェスチャー、姿勢、表情、アイコンタクト、発音等)

- 
- 
- 
-

Class	No.	Name
-------	-----	------

## Mind Mapping

まず、テーマを円の中心に書きましょう。その後、連想する言葉を次々にメモして線でつないでみましょう。  
(実際に使うかどうかは考えず、思いつくまま書いてみることにします。)



Class	No.	Name
-------	-----	------



## 教科書の文から自分の文を作りました

教科書からスピーチに使うことができそうな文を見つけて、自分の文にしてみましょう。

教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		
教科書の文	( P )	
自分の文		

Class	No.	Name
-------	-----	------

## 下書きをしてみましょう

スピーチのタイトル

「

」

	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8
	9
	10

書き終わったら先生に見てもらいましょう。

先生のサイン \_\_\_\_\_

必要に応じてモデル文や必要な単語を教科書を参考にして入れる。

Class

No.

Name

## 清書をしましょう

スピーチのタイトル「

」

	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8
	9
	10



読み練習をしたら☆を塗りつぶしましょう。

(個人練習10回、ペア練習5回、グループリハーサル5回)

グループの中でリハーサルをしたら、良かったところ、直した方がよいところをメンバーからコメントしてもらい、内容をメモしましょう。

Class	No.	Name
-------	-----	------

## 興味をもってスピーチを聞いてみましょう

1 だれのスピーチのどんなところがよかったかメモをしておきましょう。

だれの	どんなところ

2 興味をもった内容について英語で質問してみましょう。

Do you play/like/have ○○, too ?

Is ○○ interesting for you ?

Are you a(an) ○○ fan, too ?

必要に応じて質問例を入れておく。

さんへの質問


(回答)


さんへの質問


(回答)


Class

No.

Name

## スピーチ・テストのねらいと評価

スピーチ・テストでは、

「教科書の文を活用して自分や他者を紹介することができる。」かを評価します。

評価の観点とは①態度、②表現、③音声の3項目です。

観点	評価項目	A	B	C
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	①態度	とても意欲的	意欲的	あと一歩
表現の能力	②表現	ほぼパーフェクト	意味は伝わるが、 小さなミスがある	伝わらない部分がある
表現の能力	③音声	流ちょうに話せる	正しい発音で話せる	音読練習しよう

### ①態度のポイント

- 原稿を見ないで観客とアイコンタクトしながら話していますか？
- 表情・ジェスチャーを加えて話していますか？
- 気持ちがこもっていますか？

### ②表現のポイント

- 聞き手に意味が伝わる内容になっていますか？
- 適切な語彙や文法を使用して伝えていますか？

### ③音声（発音・発声）のポイント

- 発音・リズム・イントネーションに気を付けて伝えていますか？
- 人に伝わる適切な声の大きさ、スピードで話していますか？

# 2年生「道案内」

## ●●「道案内」を1単元で指導する事例●●

### 1 導入

- ① 教師とA L T、先輩が行った「道案内」等、会話モデルを見せる。モデルは教科書の文を用いて示したり、オリジナルのものを見せたりしてもよい。

考えられる道案内例（生徒の実態や教科書に応じて文を選択）：

T: Excuse me. How can I get to the library? (場所を尋ねる。)

Go down this street and turn right at the third corner.

You'll find it on your left. It's next to the hospital.

T: All right. Turn right at the third corner and it's on my left, next to the hospital. Right?

(復唱する)

S: Yes. That's right.

T: Thank you very much. (お礼を言う)

S: You're welcome.

※ 道案内ではジェスチャーが大切である。モデルを教師が見せる際には、ジェスチャーを入れるように心がけるとよい。

- ② どのような場面での会話か、どこに行きたいとっているのか生徒に確認する。

質問文の例（教師とA L Tでモデルを見せた場合の例）：

What is Mr./Ms. ○○ doing? → He/She is asking the way.

Where does Mr./Ms. ○○ want to go? → He/She wants to go to the library.

- ③ 単元の指導目標「状況を判断して適切な語を選んで表現することができる。」を確認し、クラス発表までの日程、評価方法や評価の観点をP58のシートを活用して伝える。

### 2 展開

- ① Welcome to our town! (P62-63) を配布し、拡大したものを黒板に貼り、How do you say “○” in English? などと質問して英語による建物の言い方を確認する。つづりの長い語のアクセント

(supermarket) や、日本語との表現の違い (コンビニ、デパート等) に注意しながらリピートする。(「道案内」は Hi, friends! 2 でも取り扱われており、生徒が表現を覚えているものがあると想定される。)

- ② 地図で示しながら、スキット内に出てくる重要表現や例で示した文では、Go down this street. / Turn right/left at the second corner. / next to / across from の使い方を確認し、リピートさせる。教師は、ジェスチャーを効果的に使うようにする。
- ③ モデル文で示した例文を音読させる。個人で数回読ませた後、役割を交代しながらモデル文を音読させる。読み慣れてきたら、困っている感情表現や、ジェスチャーを加えることなど、意識して取り入れるようにさせる。教師は観察し、指導の必要な点は全体にフィードバックする。
- ④ 地図を使い、現在地を示すマグネットを地図の様々な場所に置き、道案内ができるか確認する。

練習例：

T: (マグネットを地図に置く) How can I get to the library?

S: Go down this street and turn right at the fifth corner.

T: Very good. Repeat after me, "Go down this street and turn right at the fifth corner."

S: Go down this street and turn right at the fifth corner.

T: The library is next to?

S: The school.

T: That's right. Repeat after me "The library is next to the school."

S: The library is next to the school.

### 3 実践「道案内」

- ① P60-61 の内容を追加の表現として示し、参考にしながらスキットをペアで作成するよう伝える。
- ② スキットの作成ができたなら、教師が確認を行い、読み練習を行わせる。ペアで十分に練習ができたなら、他のペアとグループになって、良い点や改善点などコメントし合う。
- ③ 発表の時間と発表順を伝える。原稿は見ないで発表することを原則とし、難しい場合は、忘れてしまったときだけ見るように指導する。

## スキット・テストのねらいと評価

スキット・テストでは、

「状況を判断して適切に表現することができる。」かを評価します。

評価の観点と規準は①態度、②表現、③音声の3項目です。

観点	評価項目	A	B	C
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	①態度	とても意欲的	意欲的	あと一歩
表現の能力	②表現	ほぼパーフェクト	意味は伝わるが、 小さなミスがある	伝わらない部分がある
表現の能力	③音声	流ちょうに話せる	正しい発音で話せる	音読練習しよう

### ①態度のポイント

- 表情・ジェスチャーを加えて話していますか？
- 気持ちがこもっていますか？
- アイコンタクトに気をつけて発表していますか？

### ②表現のポイント

- 聞き手に意味が伝わる内容になっていますか？
- 表現集を活用するなどして、語彙やフレーズを工夫して伝えていますか？

### ③音声（発音・発声）のポイント

- 発音・リズム・イントネーションに気を付けて伝えていますか？
- 人に伝わる適切な声の大きさ、スピードで話していますか？



## 道案内をしてみましょう

- 1 モデル文やフレーズ集を基に、登場人物や目的地を考え、スキット原稿をペアで作ってみましょう。原稿が完成したら、ペアで一緒に先生に見てもらいましょう。

A：道を聞く側の名前

B：道を教える側の名前

(

)

(

)

A / B	会話内容

- 2 原稿が完成したら読む練習をしましょう。自然な対話になるように、強弱をつけて読んだり、声の大きさを変えて読んだり、読む速さを変えたりするなどして表現してみましょう。表情・ジェスチャーを加えることを忘れないようにしましょう。



読み練習をしたら☆を塗りつぶしましょう。(個人練習⇒ペア練習⇒グループリハーサル)

Class	No.	Name
-------	-----	------

## 道案内 表現集

### 道を尋ねる

- Where's the library?  
図書館はどこですか？
- Please tell me the way to the library.  
図書館への道を教えてもらえますか？
- Are there any restaurants around here?  
この辺にレストランはありますか？
- I'm lost. I'm looking for the library.  
道に迷ってしまいました。図書館を探しています。
- Will you show me the way to the library?
- Could you tell me the way to the library?  
図書館への道を教えていただけませんか？

### 道案内する

- Go down this street and turn right at the third corner.  
この通りをまっすぐ行って、3つ目の角を右に曲がってください。
- You'll find it on your left. It's next to the hospital.  
左側にありますよ。病院の隣です。
- You'll find it on your right. It's across from the hospital.  
右側にありますよ。病院の向かいです。
- You can't miss it.  
すぐに分かりますよ。
- Now you're here. / We're here.  
いまここにいます。
- That's not very far. You can walk.                      ○ You don't have to take a bus or train.  
遠くありません。歩けますよ。                      バスや電車に乗る必要はありません。
- Come with me. I'll show you.  
一緒に来て、教えますから。(道の見えるところまで連れて行く。)

聞き返す

- Pardon?  
もう一度言ってください。
- I am sorry, but I can't hear you.  
ごめんなさい、よく聞こえなかったのですが。
- Would you please say that again?  
もう一度言ってもらえますか？
- Will you speak more slowly?  
もっとゆっくり言ってもらえますか？
- Right?  
正しいですか？
- I see.  
分かりました。

お礼を言う

- Thank you very much.  
ありがとうございます。
- Thanks.  
ありがとう。
- You're such a nice person.  
あなたはとてもいい人ですね。
- That's very kind of you.  
ご親切にありがとう。

お礼に返事をする

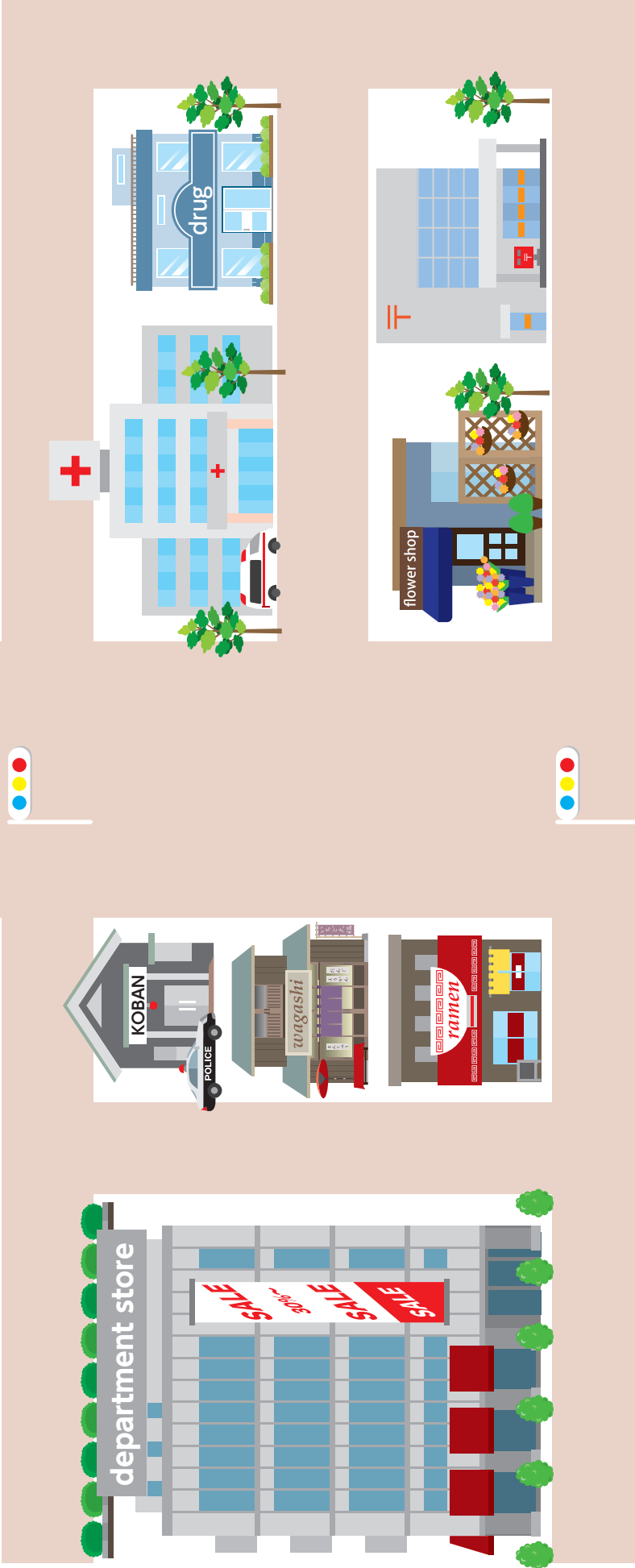
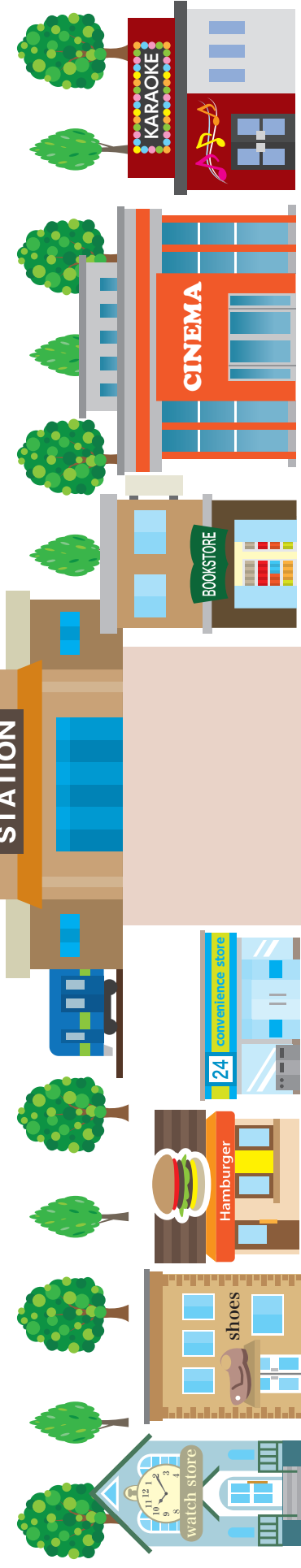
- You're welcome. ○ That's all right.
- No problem. ○ Don't mention it.  
どういたしまして。
- Have a nice day.  
よい一日を。
- Have a nice trip.  
よいご旅行を。

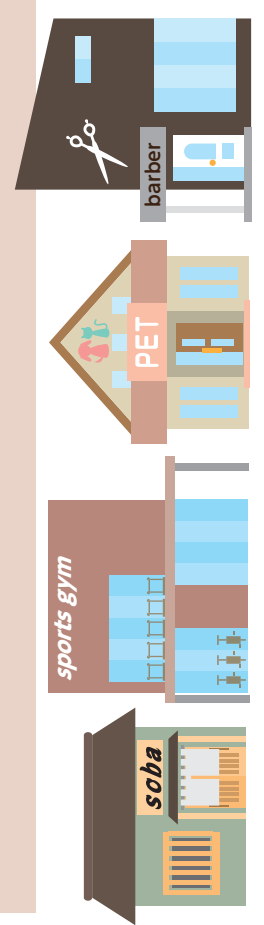
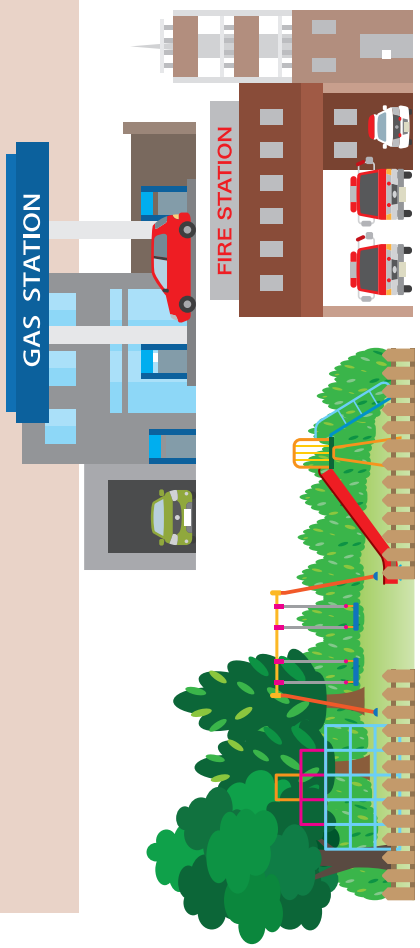
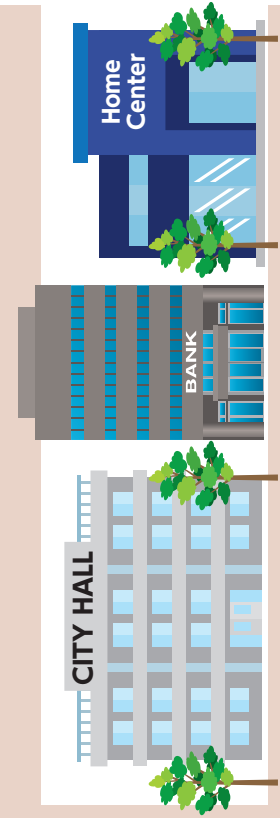
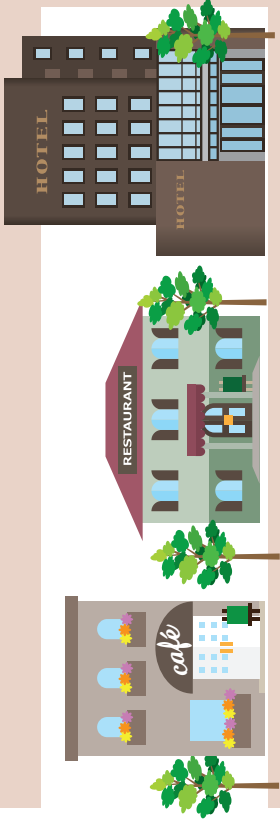
その他

- far 遠い ⇔ near 近い
- right 右 ⇔ left 左 ○ on your right 右手に ⇔ on your left 左手に
- behind 後ろに ○ next to 隣に
- behind the (a) (an) ~ : ~の後ろに ⇔ in front of ~ : ~の前に
- on the other side of the (a) (an) ~ : ~の反対側 ○ beside the (a) (an) ~ : ~の横に
- across from the (a) (an) ~ : ~の向かいに

# Welcome to our town!

東京でオリンピックが開催されています。  
皆さんの町で、日本を訪れた外国の方が  
道に迷っています。行き先までの道を案  
内してみましょう。





# 2年生「電話での応答」

## ●●「電話での応答」を1単元で指導する事例●●

### 1 導入

- ① 教師とALT、先輩が行った「電話での応答」等、会話モデルを見せる。

考えられる電話での応答会話例（生徒の実態や教科書に応じて文を選択）：

<…ring, ring >

Tom: Hello.

Ken: Hello. This is Ken. May I speak to Tom, please? (Tomに電話をかける)

Tom: Speaking. What's up?

Ken: Hi, Tom. I am doing my English homework, and I have some questions to ask you.  
Can you come to my house and help me with it?

Tom: All right. Can I go at two p.m.? I am eating lunch now.

Ken: Of course. Let's meet at my house at two. (時間と場所を決める)

Tom: OK. See you then.

※ P69に主な「電話での応答」の表現をまとめてある。使用教科書や習熟の程度に応じて使う表現を選択するようにする。

- ② どのような場面での会話か、電話の用件は何か、この後どうするのか、生徒に確認する。

質問文の例（教師とALTでモデルを見せた場合の例）：

What is Ken doing? → He is doing his English homework.

What will Tom do for Ken? → He will help Ken's homework.

When and where will they meet? → They'll meet at Ken's house at two.

- ③ 単元の指導目標「状況を判断して適切に表現することができる。」を確認し、クラス発表までの日程、評価方法や評価の観点をP58のシートを活用して伝える。

## 2 展開 (P66-67 のワークシートを用いて練習する)

- ① P66(1) のモデル会話を音読練習する。教師の後についてリピートし、その後ペアで読練習する。モデル文は学習実態に合わせて変更する。
- ② (2) の指示に従って、(1) のモデル会話中の下線部の部分を変えて、練習する。
- ③ P67 の 2 を使って、自分の用件を考え、電話での会話をペアで練習する。
  - ・ 時間制限を設け、ペアを変えながら行う。
  - ・ 電話をかける側・受ける側の両方を交替して行う。
  - ・ 電話をかける側になったときは、(1) に書いた自分の用件について会話をする。
  - ・ 電話を受ける側になったときは、相手の用件について (2) の表に記入する。

## 3 実践「電話での応答」

- ① P68 のワークシートを使い、P69 の「電話での応答 表現集」を参考にしながら、ペアでスキットを作成するよう伝える。
- ② スキットが作成できたら、教師に確認を受けた後、読み練習を行うように指示する。  
ペアで十分に練習ができたなら、他のペアとグループになって、良い点や改善点などコメントし合うよう伝える。
- ③ 発表の時間と発表順を伝える。原稿は見ないで発表することを原則とし、難しい場合は、忘れてしまった時だけ見るように指導する。

## 電話での応答 モデル会話の練習

1 モデル会話を練習しましょう。

(1) モデル会話を音読練習しましょう。

<…ring, ring >

Tom: Hello.

Ken : Hello. This is Ken. May I speak to Tom, please? (Tom に電話をかける)

Tom: Speaking. What's up?

Ken : Hi, Tom. I am doing my English homework and I have some questions to ask you. Can you come to my house and help me with it?

Tom: All right. Can I go at two p.m.? I'm eating lunch now.

Ken : Of course. Let's meet at my house at two.  
(時間と場所を決める)

Tom: OK. See you then.

(2) 次の内容を基に、モデル会話中の下線部を変えたり、必要に応じて下線部以外の表現も変えながら、電話をかける側と受ける側とを交替で、ペアで練習しましょう。

	電話をかける相手	用 件	時間・場所
ア	Mike	今日の午後、サッカーに誘う 使える表現 : play soccer with my friend, join us	午後 1 時に学校で 使える表現 : at school
イ	Lisa	今度の日曜日、映画に誘う 使える表現 : go to the (a) movie	午前 10 時に駅で 使える表現 : at the station
ウ	Paul	辞書を貸してほしいと頼む 使える表現 : borrow, dictionary	今から Paul の家に行く 使える表現 : now, at your house
エ	Jane	来週土曜のコンサートのチケットが二枚あるので行かないか尋ねる 使える表現 : two concert tickets	その日は忙しいので行けないと断る 使える表現 : busy



2 自分で用件を考えましょう。

(1) 自分の用件を決めましょう。

<電話をかける時> \*自分の用件や時間・場所などの設定をしましょう。

--

(2) ペアになって会話しましょう。

<電話を受ける時> \*相手の名前や用件などについてメモしましょう。

	電話の相手	用 件	時間・場所
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			

Class	No.	Name
-------	-----	------

## 電話でのオリジナル会話作成

- 1 ペアでオリジナルの会話を作ってみましょう。少なくとも3回以上やりとりする会話を作ること。  
(A → B → A → B → A → B) 原稿ができたら先生に見てもらいましょう。

A：電話をかける側の名前

B：電話を受ける側の名前

( ) ( )

A / B	会話内容

- 2 原稿が完成したら読む練習をしましょう。自然な対話になるように、強弱をつけて読んだり、声の大きさを変えて読んだり、読む速さを変えたりして表現してみましょう。表情や、ジェスチャーを加えることを忘れないようにしましょう。



読み練習をしたら☆を塗りつぶしましょう。(個人練習⇒ペア練習⇒グループリハーサル)

Class

No.

Name

## 電話での応答 表現集

A (電話をかける側)	B (電話を受ける側)
電話をかける <input type="radio"/> Hello. <input type="radio"/> This is ○○ speaking.	電話を受ける <input type="radio"/> Hello. <input type="radio"/> Speaking. <input type="radio"/> Who is calling, please?
相手につないでもらう <input type="radio"/> Can/May I speak to ~, please? <input type="radio"/> Is ~ in?	待ってもらおう <input type="radio"/> Hold on, please. <input type="radio"/> Just a minute. <input type="radio"/> Wait a minute.
伝言をお願いする <input type="radio"/> Could you leave a message?	相手がいないと伝える <input type="radio"/> Sorry, he/she is out now.
かけ直す <input type="radio"/> I will call again. <input type="radio"/> I will call back later.	伝言を受ける <input type="radio"/> Can I take a message ?
かけ直してほしい <input type="radio"/> Could you tell him/her to call me back?	伝えるよ <input type="radio"/> OK. I will tell him/her.
電話があったことを伝えてほしい <input type="radio"/> Could you tell him/her that I called?	その他 <input type="radio"/> Thank you for calling. <input type="radio"/> You have the wrong number.
<b>電話の用件を話すときの表現</b>	
<input type="radio"/> Are you free ~ ? <input type="radio"/> Do you have any plans for ~ ? <input type="radio"/> How about ~ ? <input type="radio"/> Let's ~ . <input type="radio"/> Would you like to come? <input type="radio"/> Can you come? <input type="radio"/> Do you want to join us? <input type="radio"/> Sure. <input type="radio"/> Sounds good. <input type="radio"/> Why not? <input type="radio"/> I am sorry, but ~ . <input type="radio"/> I am sorry, I can't. <input type="radio"/> I would like to, but ~ . <input type="radio"/> See you then.	
<b>その他</b>	
<input type="radio"/> Pardon? <input type="radio"/> I am sorry, but I can't hear you. <input type="radio"/> Would you say that again?	

# 3年生「地域紹介」

## ●●「地域紹介」を1単元で指導する事例●●

### 0 前単元での帯活動

あらかじめ帯活動で地域紹介に必要な語彙を定着させておく。例えば、ビンゴの活動で定着させる場合(P73)は、生徒が飽きないように、以下のように読み上げ方を変化させ、段階を踏んだ指導を行いながらその語彙に触れられるようにするとよい。

- 1回目 意味、読み方の確認が必要な単語の確認
- 2回目 読み上げ方パターン1 building, building, [b u i] building
- 3回目 読み上げ方パターン2 building, building, tall buildings
- 4回目 読み上げ方パターン3 building, building, there are tall buildings in Shinjuku.  
※文は生徒が表現活動で使ってほしいものにする。

### 1 導入1 都道府県クイズ

- ① ワークシート (P74) を配布し、クイズ“Which prefecture is this?”を行う。

クイズ例：

- No.1 : This prefecture had the Olympic Games in 1998. It has many mountains. Many people visit there in summer and enjoy climbing mountains. (長野県)
- No.2 : This prefecture has a lot of snow in winter. It has a big island. It is famous for rice. (新潟県)
- No.3 : This prefecture has a lot of snow in winter. Many people visit there in summer and enjoy the nature. It has Snow Festival in winter. It is the largest prefecture in Japan. (北海道)
- No.4 : This prefecture is famous for delicious tea and oranges. It has a big lake, called Hamana-ko. You can enjoy seeing Mt. Fuji in this prefecture. (静岡県)

※イラストの都道府県は以下のとおりである。

A. 北海道 B. 栃木 C. 愛知 D. 京都 E. 長野 F. 新潟 G. 東京 H. 静岡

→ 答え No.1 ( E ) No.2 ( F ) No.3 ( A ) No.4 ( H )

- ② 生徒はクイズを聞き、その都道府県がどこであるかを考える。
- ③ クイズの後、単元の指導目標「既習の知識を活用し、即興性を加味して表現することができる。」を確認し、クラス発表やインタビューテストまでの日程、評価方法や評価の観点を P78 のシートを活用して伝える。

## 2 導入2 モデル文のリーディングと文の構成の確認

- ① ワークシート (P74) のモデル文を提示し、黙読させる。
- ② 教師は英文の説明が概要から始まり、その後に詳細説明をしていることを生徒に気付かせ、汎用性のあるフレーズ (This is …, It is …, There are …, You can enjoy…など) を指摘し、線を引かせる。

## 3 展開1 「地域を紹介しよう」(原稿の作成と発表の練習)

- ① グループをつくり、各グループでモデル文を参考にしながら、ワークシート (P75) を活用し、「紹介する地域」を決める。必要に応じて P77 の写真を見せる。
- ② 生徒には、まず、個人でその地域について調べるとともに、マインド・マップを活用して紹介する内容を考えるよう指示する。
- ③ グループをつくり、各個人のアイディアを出し合いながら話し合っ、イメージを広げ、紹介内容を決めさせる。グループで協力しながら英文を作成するよう指示するとともに、ワークシート (P76) に記入させる。できた英文について教師のチェックを受けるよう伝える。

※ (参考) 東京の観光名所が英語でガイドされているサイト

Official Tokyo Travel Guide GO TOKYO

[公益財団法人東京観光財団ホームページ]

<http://www.gotokyo.org/en/index.html>

- ④ 発表に向け、グループ内で発表方法等を話し合いながら、練習を行わせる。

## 4 展開2 「地域を紹介しよう」(発表)

- ① グループごとに発表を行わせる。
- ② 発表を聞いている生徒は、発表が終わったら、地域を紹介する際のキーワードとなっていた語を思い出し、メモしておくよう指示する。

## 5 帯活動

- ① ペアとなって互いに複数の地域紹介を行う活動を帯活動として実施する。前時に各グループから発表された地域の中から、一方の生徒が一つの地域を選び、その地域名を相手に伝えるように指示する。他方の生徒は、前時でとっていたメモを活用したり、自分の考えを加えたりしながら、英文5文以上でその地域を紹介するようにさせる。
- ② 立場を変えて、もう一度取り組ませる。
  - ※ 活動へ取り組むことが難しい生徒には、モデル文で使用したフレーズから、自分で言うことのできるような表現を見つけて練習するように指導する。

P77の写真を小さなカードにしておき、キーワードをメモさせるようにしてもよい。生徒が紹介する活動に慣れるまで継続して練習させる。教師はモデル文や地域を紹介する際のキーワードを随時生徒に思い出させながら、指導する。

## 6 インタビューテスト「地域紹介」

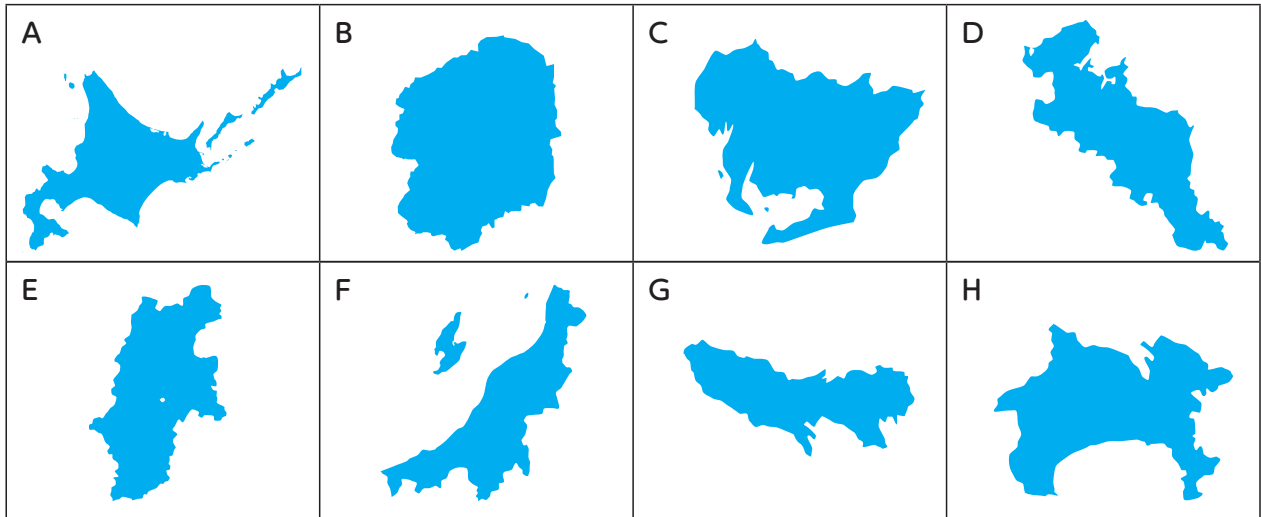
- ① P77の写真を画用紙等に貼り、カードしておく。
- ② インタビューテストを実施する。(P78-79 参照)
  - 英語でのやり取りを行う際、発展的な学習への取組として、その話題と生徒自身に関わる質問をするなど、即興的な質問を加えることもできる。
- ③ 後日ライティングテストとして、定期テスト等で英文を書かせるのもよい。

- B** nature(自然), river(川), lake(湖), forest(森林), waterfall(滝), sea(海), mountain(山), island(島)
- I** place(場所), temple(寺), shrine(神社), building(建物), bridge(橋), restaurant(レストラン), shop(店), park(公園)
- N** famous(有名な), popular(人気のある), beautiful(美しい), interesting(面白い), exciting(わくわくさせる), favorite(お気に入り)
- G** east(東), west(西), south(南), north(北), eastern(東の), western(西の), southern(南の), northern(北の)
- O** visit(訪れる), build(建てる), symbol(シンボル), ward(区), city(市), town(町)

<b>B</b>					
<b>I</b>					
<b>N</b>			Free		
<b>G</b>					
<b>O</b>					

## 地域を紹介してみましょう

### 1 都道府県クイズ “Which prefecture is this?”



No.1 (            ) No.2 (            ) No.3 (            ) No.4 (            )

### 2 モデル文を見てみましょう。

(東京都庁)

This is Tokyo Metropolitan Government Building No.1 in Shinjuku.  
 It is one of the famous symbols of Tokyo. (その場所の概要を伝える。)  
 You can go up to one of the observatories. They are popular spots  
 for taking photos. (その場所の説明 1)  
 There are many art works by famous artists in the building.  
 You can enjoy seeing them, too. (その場所の説明 2)



© TCVB

(昭和記念公園)

This is a picture of Showa Kinen Park. It is in Tachikawa.  
 It is one of the biggest parks in Tokyo. (その場所の概要を伝える。)  
 There are many kinds of trees and other plants in the park.  
 You can enjoy beautiful flowers all year.  
 (その場所の説明 1) It is famous for its fireworks.  
 You can enjoy them during the summer festival.  
 (その場所の説明 2)



© TCVB



## 地域を紹介してみましょう

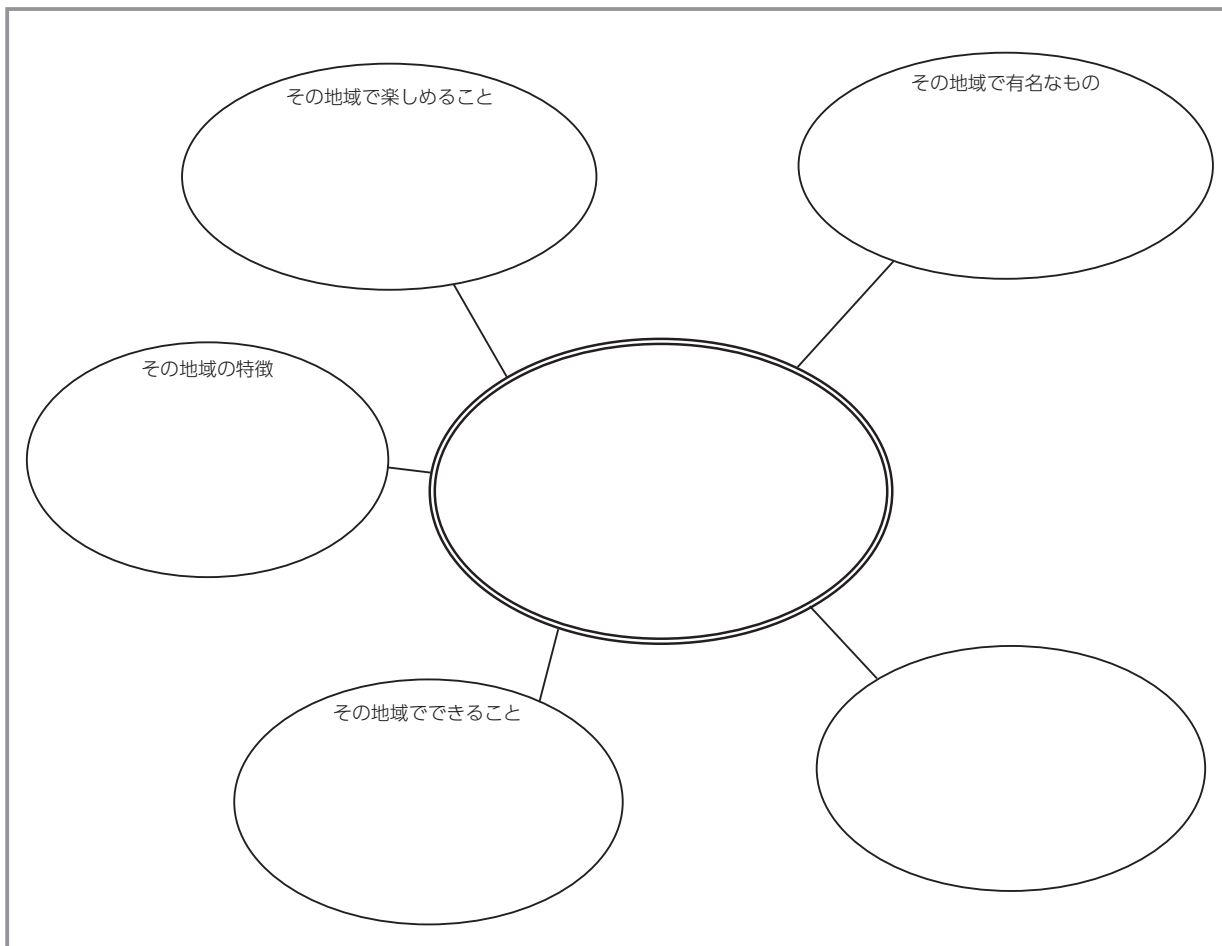
1 東京でオリンピックが開催されています。友達になった外国の人に東京の名所を紹介します。

(1) 紹介する地域

- 浅草
- 上野
- 押上
- 高尾
- 小笠原
- (生徒の知っているような名所や学区の名所を入れる。)

(2) 紹介する地域を一つ決めて、マインド・マップを書いてアイデアを広げましょう。

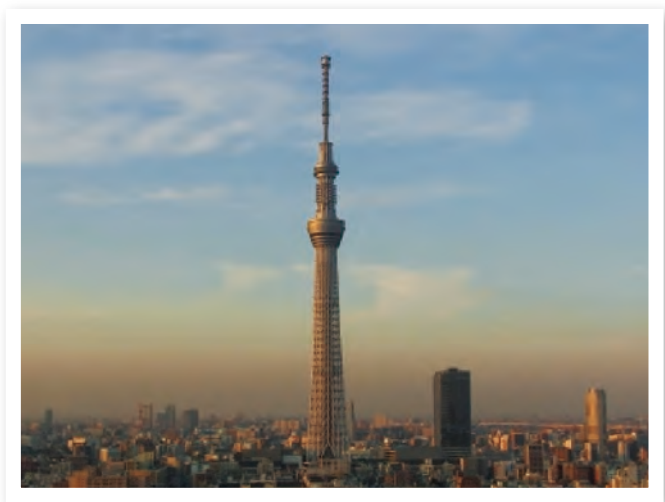
※紹介する内容が思いつかない時はグループの人からアイデアをもらいましょう。



場所 ( ) 紹介したい内容

- 
- 
- 
-





## インタビュー・テストのねらいと評価

インタビュー・テストでは、

**「既習の知識を活用して即興性を加味して表現することができる。」**かを評価します。

(テストの手順)

- 1 一人ずつ教室に入ります。
- 2 先生に英語で挨拶して、名前と出席番号を英語で言います。
- 3 先生がカードを順番に示します。2分間で説明をしてください。(※カードを見て説明できそうにないものは Let me skip it. と言えば次のカードに変えることができます。何種類の説明ができたかではなく、2分間で5文以上の英文を使って正確に説明をできたかを評価します。)
- 4 終わったら、Thank you. とって、退出します。

評価の観点と規準は①態度、②表現、③音声の3項目です。

観点	評価項目	A	B	C
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	①態度	とても意欲的	意欲的	あと一歩
表現の能力	②表現	ほぼパーフェクト	意味は伝わるが、 小さなミスがある	伝わらない部分がある
表現の能力	③音声	流ちょうに話せる	正しい発音で話せる	音読練習しよう

### ①態度のポイント

- 表情・ジェスチャーを加えて話していますか？
- 気持ちがこもっていますか？
- 相手とアイコンタクトしながら説明していますか？

### ②表現のポイント

- 聞き手に意味が伝わる内容になっていますか？
- 適切な語彙や文法を使用して伝えていますか？(単語でなく文で答えます。)
- 2分間説明を続けられましたか？
- すぐに説明を開始していますか？
- 考えている時には Let me see... や Well.. など、考えていることを伝えていますか？

### ③音声（発音・発声）のポイント

- 発音・リズム・イントネーションに気を付けて伝えていますか？
- 人に伝わる適切な声の大きさ、スピードで話していますか？

#### 【インタビュー・テストの例】

T: We are going to have the interview now. Are you ready?

S: Yes, I'm ready.

T: Good. First, I will show you a card. Then you will have two minutes to talk about it. If you don't know what to say about it, just say "Let me skip it." Then you can look at another card. When you talk about a card, you should use five or more English sentences. Then I will ask you a few questions about it. O.K.?

S: Yes.

T: That's great. Let's start! This is your card. First, please think about it for two minutes.

(2分後)

T: Time is up. Please talk to me about it.

S: (英文による説明)

T: Let me ask you two questions about it.

Question 1 (質問)

Question 2 (質問)

T: All right. The interview is over. You may go back to your homeroom.

S: Thank you.

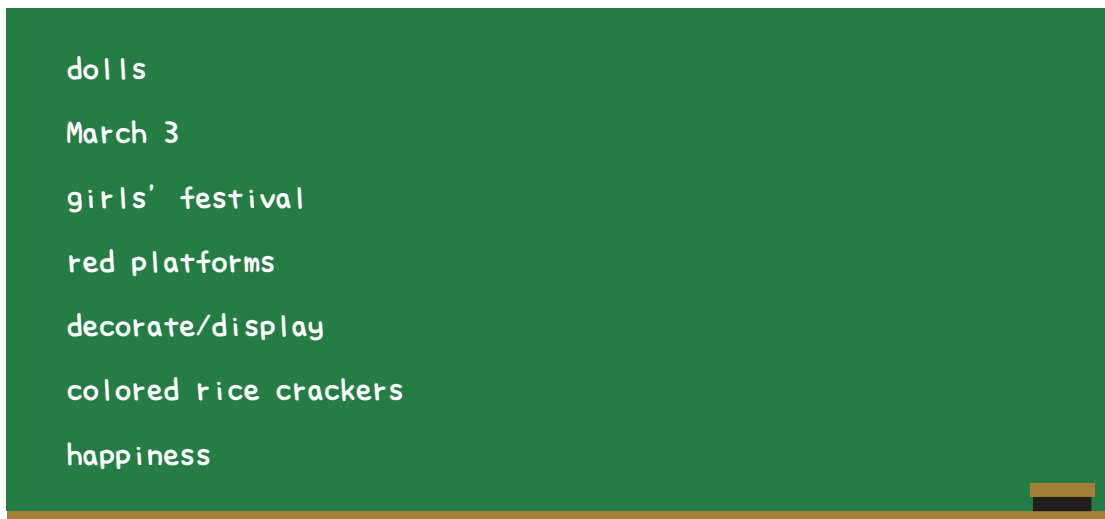
# 3年生「日本文化紹介」

## ●●「日本文化紹介」を帯活動で継続的で指導する事例 ●●

### 1 2学期の最初の授業からの帯活動

2学期の最初の授業で、英語による日本文化紹介の仕方を次のように指導する。

- ① ペアを組ませ、対面するように立たせる。一方の生徒（生徒A）が黒板に向かい、他方の生徒（生徒B）が黒板を背にするようにする。
- ② 教師が黒板に「ひな祭り」と書く。
- ③ 黒板を向いている生徒Aはパートナーに「ひな祭り」を英語で説明するよう指示する。また、その際「ジェスチャーは使ってはいけない」と伝える。
- ④ 黒板を背にした生徒Bが Is it *hinamatsuri*? と当てることができたなら、生徒Aは Yes, it is. と答え、着席する。
- ⑤ 終わったペアには「他にどんなキーワードを使ったらうまく説明できたか」を話し合わせる。  
※生徒は英語で言えなかった語について教師に How do you say *hinadan* in English? のように聞いてもよい。
- ⑥ 一定時間が過ぎたら教師は全員を座らせ、どんなキーワードを使ったかを生徒に聞き、黒板に書く。
  - 1) 使ったキーワードを生徒から挙げさせ、板書する。



- 2) 板書したキーワードの横に説明するのに使う順番をふる。教師は「概念の大きなものから小さなものになるように説明しよう。最初はどれ？」というように伝え、生徒の発話の内容が正しい話の流れになるように指導する。また、「誰が?」、「どうするの?」、「何を?」、「どこに?」、「いつ?」といったことを確認させながら文を作成できるように支援していく。この場合は、girls' festival という語が最も概念の大きなものであるので①となる。

Dolls ⑤

March 3 ②

girls' festival ①

red platforms ④

decorate/display ③

colored rice crackers ⑦

happiness ⑥

3) 最初のキーワードを使って文を作らせる。生徒全員に問いかけ、答えた生徒の文を使って、大きな声でリピートさせる。

(It's a girls' festival on March 3.)

①

②

4) 以下、他のキーワードについても同様に行う。

(People decorate red platforms with dolls. They wish for girls' happiness.)

③

④

⑤

⑥

They eat colored rice crackers and sing songs.)

⑦

5) 全部のキーワードを使った全部の文をもう一度リピートさせる。

(It's a girls' festival on March 3. People decorate red platforms with dolls.

They wish for girls' happiness. They eat colored rice crackers and sing songs.)

6) 手順の 1 に戻り、ペアは立場を交換して次の「潮干狩り」に挑戦する。

⑦ ①から⑥までの活動を、毎時間の最初に行い、日本文化を二つずつ紹介する。

★扱う日本文化は次の 14 種類である。ひな祭り、潮干狩り、梅雨、お中元、盆踊り、月見、初詣、お年玉、節分、押入、下駄、浴衣、寿司、畳 (P83 参照)

なお、上記以外に日本文化として紹介できる地域の特色がある場合は、ワークシートに追記する。

## 2 練習（2周目以降）9月下旬～10月

- ① ワークシート（P78）を使い、インタビュー・テストの説明をしておく。
- ② 今度は、ペアは起立させず、隣同士で座って、協力してキーワードを出す。習熟の程度に応じて、P83にある絵でカードを作らせ、裏にキーワードをメモして練習してもよい。
- ③ 2分程度たったら、交代する。

## 3 インタビュー・テスト「日本文化紹介」

インタビュー・テストの方法（P78 参照）

- ワークシートにある絵をカードにして用意しておく。
- インタビュー・テストでは教師は英語のみを使うようにする。
- 英語でのやり取りを行う際、発展的な学習への取組として、その話題と生徒自身に関わる質問をするなど、即興的な質問を加えることもできる。
- 時間短縮のため、次の生徒はすぐにテストを受けられるように待っているようにする。
- 順番を待つ間、またインタビュー・テスト終了後の課題を生徒に示しておく。



## 日本文化を紹介してみよう

東京にオリンピックがやってきました。あなたは、仲良くなった外国人に日本の文化を説明しようとしています。今までに習った表現を活用して、説明してください。

1 ひな祭り 	2 潮干狩り 	3 梅雨 	4 お中元 
5 盆踊り 	6 月見 	7 初詣 	8 お年玉 
9 節分 	10 押入 	11 下駄 	12 浴衣 
13 寿司 	14 畳 	15	16
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>※15、16については、地域に根付く文化や生徒が興味をもっている日本文化等、実態に応じてイラストを加える。</p> </div>			

Class

No.

Name

# 中学校英語科教師のための指導資料

東京都教育委員会印刷物登録  
平成27年度 第159号

平成28年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育指導課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電 話 03-5320-6841  
印刷会社 株式会社 アライ印刷

**リサイクル適性** 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。